

一月二十九日の日銀政策決定会合で、金融機関が保有する日銀当座預金への〇、一％のマイナス金利の適用を決定し、今後必要な場合、さらに金利を引き下げることとしたことがサプライズを呼んでいる。

マイナス金利導入に伴う円安期待が高まり、株価も大引けで四七六円高となった。

二％の物価高を旗印にして金融政策を打ち出している日銀が、その後の経済情勢が全く思うように動かないので、黒田総裁もイライラしているのかも知れない。私は、この欄で最初から総裁の物価引上げ二％の政策に疑問、否反対を表明して来た。

日銀の今回の決定も藪から棒のきらいはあつて、政策委員会九人の審議委員の意見も五対四という僅差で賛成となったようだ。五のうち三は日銀の正副総裁と言うから三人を除く審議委員の意見は二対四で反対が多かった、ということになる。

いくら市場に資金を供給しても、需要が伴わなければ、効果が乏しいことは明らかであるのだから、そこを当然考えなければならない。

私は、そりや昔の政策だと言われることを覚悟して政府の政策投資を増やす（公共事業や財投資金）（建設公債なら差支えない）、消費税の軽減税率は止める（ただ、経済全般に本来大きな影響はない筈）、民間金融機関の融資を促進する（金融庁がわるいのか、この役所が出来て以来、金融機関の融資態度が一般に臆病になっている）などの方策を進めて貰いたい。

このまゝではアベノミックスはダメノミックスになってしまう恐れが大ではないか。